

リスクの本質を考える 横浜国立大学IASリスク共生社会創造センター客員教授 野口和彦

本シンポジウムは、初等・中等教育におけるリスク教育のあり方を検討するものであるが、この検討には、リスク教育の目的と教えるべきリスクの本質は何かということを検討する必要がある。

1. リスクの本質を考える

リスクの本質を考える際に、何故リスクという概念が生まれてきたかを考える必要がある。リスクが単なる危険性を表現する概念であれば、その対応は、実効性の問題はあるものの、その危険性を避けたり、その可能性を無くしたりという方向性で進められるし、その検討には危険性という概念でも不足はない。我々がリスクという概念を必要とするのは、その検討の対象とする状況に、豊かさや利便性を獲得したいという欲求があるために、その欲求の獲得に伴う危険性を一定のレベルで受容する必要がでてくるからであり、その最初の事例として冒険貸借が挙げられる。

リスクの本質は、影響と起こりやすさの不確かさにある。このリスクの捉え方や表現の仕方は、リスク概念を用いて何を判断しようとするかというリスク活用の目的によって異なっている。リスク分析から我々は様々な情報を得ることができる。例えば、ある事象を経験していなくても可能性を指摘できれば、その可能性に対応の準備をすることが出来る。また、どのリスクに対して優先的に対応するかを考える事や、その事象を受入れるかどうかの判断の参考にすることも出来る。

リスクという概念は人間が創りだした概念である為、正解を一つに定める必要はないが、その定義の仕方によって、そのリスク分析から導き出される情報や望ましい対応の考え方が異なってくるということは知るべきである。本講演においては、幾つかのリスクの定義やその定義が検討にもたらす影響を紹介する。

2. リスク教育の目的を考える

教育は、その目的によって、教育内容が異なるのは当然である。したがって、リスク教育のあり方を検討するためには、その目的を共有する必要がある。

安全領域では、安全に関してリスク概念を用いて検討することも多いが、リスク概念を用いて安全教育を行うということと、リスク概念の持つ本質から何を学びどのように活用するかを教えるためにリスク教育を行うということでは、その教育目的や内容が異なってくる。

また、リスクは、影響を与える対象・事象の理解と影響を与えられる対象やその種類との関係で検討される為、教育にはその双方の知識が必要になる事を知ったり、異なるリスクが独立ではなく連携していて、あるリスクを小さくするとあるリスクが大きくなる場合がある事を知ったりすることなども有意義であろう。

リスク教育を行なうことによって、どのような教育効果を達成するかは、教育の視点、社会が必要としている知識・技術の視点等の多様な視点で議論するべきである。